

### 技術フォーラム'96仙台に参加して

#### 青森県支部

株式会社 コサカ技研 池本 栄一

去る9月12日・13日の両日、ホテルメトロポリタン仙台にて全地連「技術フォーラム仙台'96」が開催され、盛会のうちに終了しました。

私は東北地質調査業協会のスタッフ（技術発表部会・委員）の一人として参加しましたが、これまで協会の行事等に携わったこともなく、正直な所協会幹部諸氏のお顔もよく分からず、初回の打合わせの際は緊張しました。

私の役割は技術発表部会の一担当者でしたが、リーダーの三塚罔彦氏（明治コンサルタント仙台支店長）が温厚で悠然とした方であったためか、技術発表部会の各委員諸氏も次第にペースに載せられて（？）ムードも盛り上がり、フォーラム当日には全員が気力充実・やる気十分の体制になっていたと思われます。

9月12日朝一番のミーティングでは、斉藤芳徳委員長（基礎地盤コンサルタンツ株式会社東北支社長）、企画委員会の吉川謙造委員（㈱復建技術コンサルタント社長）から、各委員はそれぞれの持場で責任を持って職

場を遂行するよう檄を飛ばされ、改めて身の引き締まる思いをしました。

私の担当セッションは9月13日でした。会場内の照明やマイクの使用方法は、ワーキングスタッフの中条達矢氏（㈱ダイヤコンサルタント）が十分把握しており、私はそれを良いことに怠けておりましたが、終日セッション会場に詰めていたためか、研究発表が無事に終了した時は、一種の解放感を味わった次第です。

さて、初めて協会行事のお手伝いをした訳ですが、その運営方法については感心させられる点が多く、感想を少し述べさせて戴きます。

第一にスケジュール管理が厳密に行なわれており、非常に手際が良いこと、第二に作業分担と責任体制がしっかりしていること、第三に充実した運営マニュアルが整備されていることなどが印象に残りました。

また、何よりも優秀なスタッフに恵まれている点が、当協会の最大の強みではないでしょうか。

最後になりましたが、お世話になりました各位に対し、改めて御礼を申し上げ筆を置かせて戴きます。

## 秋田県支部

奥山ボーリング 株式会社 佐々木俊吉

全地連「技術フォーラム'96仙台」が東北地質調査業協会による綿密な段取りのもとに盛大かつ成功裡に終了されましたことに、協会の一員として関係各位に深く感謝の意を表します。

技術フォーラム開催も7回を数え、回を重ねる毎にその発表内容も充実してきていることを実感しております。

最近の業務は環境、景観等時代のニーズが変化してきていることに合わせ、調査手法も複雑多岐にわたるようになり、技術者もそれぞれ専門分野に分化せざるを得ない状況にあります。同時にそれは、「全体像」がみえない技術者になりがちであるといった危険な要素を抱んでいるといえます。そんななかで技術フォーラムは、技術者の身近な問題や研究成果をいわば公開し、聴講者との質疑（審査）を得て技術を確立する場であり、先輩技術者の知見を取り入れながら「全体像」のみえる技術者になるためには格好の機会であると思います。

今回も若い技術者の発表が多く見られ、限られた時間でその全部を聞き手に理解してもらうことは大変難しい技術であると感じました。

私は全地連技術フォーラムとは全地連に所属する仲間相互の研究意欲を向上させることを最大の目的とする場であるにとらえ

ており、各種学会とは異なる意味合いをもつと考えています。従って、聴講、司会する先輩技術者の役割も大きいと思います。現に、このフォーラムでの質問の一つの形式として、自分の体験をおりませながら上手に発表内容を評価して下さっていたセッションもあって、さすがと感服いたしました。そして質問もまた難しい技術であると感じた次第です。全地連技術フォーラムの増々の発展を祈念いたします。

## 岩手県支部

古 舘 敬 八

先づ以って、技術フォーラム'96仙台が盛会の内に大成功おめで度う御座います。地質調査の技術が年々向上され、目を見晴る思いで参加いたしました。技術力を如何無く発表され、地質調査の重要性と地域に対する貢献度が大なる事に、感動して参りました。

地質調査業の「地球時代の知識情報サービスを目指して」と題して倫理綱領発表し確認されました事に賛同致すものであります。

全地連のスタッフの方々、技術発表された方々に更に吾が東北地質調査業協会理事長を始め、実行委員長並びに大会開催に準備下さった、総務財務部会、技術発表部会、講演部会、行事部会、事務局、皆々様の

並々ならぬ、ご苦勞された事と存じます。誠に御苦勞様でした。本大会が東北の杜の都仙台市に於いて開催された事は正に東北地方を再認識し仙台市にとって大いに宣揚効果が有りと確信致します。私なりに開催の意義を考えた時、明治のご維新は西より起り東北に依り大成したと、薩州の西郷さんより東北の原敬さんで成就されたと思って居ります。この様に吾が地質調査業が21世紀を目前にして開かれた技術フォーラム'96仙台は、大躍進の約束を示した壮挙であると確信する次第です。

太陽系の緑の惑星地球は、年齢四十億と云われて居ります。太陽より生まれ出ずる時は、いかにも壯觀火の玉で言語に黙する莊嚴なる生成であったと思います。万物「成住壊空」の法則に従って居ると云われて居ります。

「成」は生まれる、発生する。「住」は形成され、「壊」は破壊、壊れる、消滅。「空」は無にあらざる生まれる準備期。吾ら住む緑の惑星地球は「住」時代なそうであります。人で申せば、四十代の壮年期を迎えたばかりの前途悠遠であります。このすばらしい地球、東の国日本に生を受け、この大地の業に関連をもち、地球の為、世界人類の平和の為、大地の地質解明の調査を業となし得る事を誇りと思つて、倫理綱領を座右の銘といたします。人は皆人の為に生き、情けは人の為ならず、必ずかけた情

けは吾が身に還つて参る事と信じ、人が、世間がよろこんでもらえるならば、この上無き幸せでは有りませんか。地質調査の業を地に落とす者無く努力し、地途に頑張つて参り度と思ひます。

全地連の方々、各地方協会仙台参加の方々、又講師の方々、本当に有難度御座いました。本誌をかり、御礼申し上げます。

益々御隆祥心から念じ、感想といたします。

山形県支部

株式会社 新東京ボーリング

瀬野 孝浩

私の技術フォーラムへの参加は、札幌における「技術フォーラム'94」につづき二度目である。前回は発表者としての参加で緊張したものだが、今年は多少の余裕を持って臨むことができた。そこで、私なりに興味を引かれたことをいくつか書きたいと思う。

まず第一に、多方面にわたる発表内容とその充実ぶりであった。一般調査にはじまり、新技術の開発、地下水、地盤評価の新しい試みなど、我々の業務がいかに多様であるかを示すもので、自分の経験したことのない分野の情報を得る絶好の機会と言える。私自身は地すべりや斜面調査に携っているが、安定度の評価や明瞭なすべり面を

持たない斜面変状の把握など、日頃頭を痛める点に対してヒントを与える発表があり、大いに参考となるものがあった。今後の業務において積極的に導入し、多角的な検討を行っていきたいと思う。また、発表者は比較的若い技術屋が多かったが、それぞれが内容を良く理解し、分かり易い発表を心掛けており好感が持てた。このフォーラムへの参加が今後の業務の自信につながることは容易に想像できる場所であり、各人がそれぞれの分野で大いに活躍してくれることを期待したい。

今回、特別企画として「女性技術者が描く将来像（夢）」と題したパネルディスカッションが開かれたが、昨今の女性技術者の増加に合った実にタイムリーな企画であった。今や大学の地学関連学科は女子学生が急増していると聞き、自分達の時代とは随分変わったものだと感じていた。これに伴って、企業の女性技術者も増えており、当社でも初めての技術者が誕生した。しかしながら社内は男社会であり、現場も周りは男ばかりと経験のない環境に置かれ、とまどいも隠せないようであった。そんな時にこの企画に参加し、同じ想いを持った人や先輩技術者の話を聞くことで、自分の進む道の灯りがおぼろげに見えたのではないかなと思う。また、彼女らに接する我々にも関係することもあり、増々多くなるであろう女性技術者を刺激に発憤しなければと

思った次第である。

ただ一つ、発表時間が10分間というのはやや短いのではないかと思われた。副座長としての担当セッションでも、もう少し時間をあげたいという発表があり、今後検討して頂ければと思った。（発表数が多く無理があるとは思いますが…）

技術フォーラムも7回を数え、回を重ねるごとに参加者が増え、今回は最大規模であったと聞く。この参加意欲がある限り、地質調査業の将来は非常に明るいものと確信できた。最後に、フォーラムを裏で支えたスタッフの方々に感謝と御礼を申し上げたいと思います。

#### 福島県支部

地質基礎工業 株式会社 角谷紀元二  
全地連「技術フォーラム'96仙台」ということで、第7回目にして東北地区の開催となり、東北ブロックで活動している当社としても、実行委員（行事部会）を始め7名の参加をさせて頂き大変有意義であったと思います。今後研究及び経験事例を大いに役立てたいと思っています。執行部の皆様のご苦勞に厚くお礼申し上げます。

発表論文が多く、残念ながら拝聴できなかった部分もありましたが印象に残った点を二三述べさせていただきます。

#### 1. 最近の傾向として女性技術者が多いこ

と、女性のための特別企画があったこともあるでしょうが、女性の活躍が各業種に亘ってとみに多くなっている中で、3Kと呼ばれる範疇と考えられていた当業種としては喜ばしい限りです。私共も女性技術者の採用と育成を実施しております。

2. ハード・ソフト一体型産業として位置づけられる地質調査業は、国土の基礎情報をデータベースとして利用価値の高まる中で建設CALSの推進は、当業界にとっては特に必要であり早期の導入の必要性を感じました。

3. 「地質と文明」山形大学の原田憲一教授の講演では、自然利用（技術）と自然理解（科学）の項で、特に比喻を交えて資源利用・地盤利用において、まず先立って身の回りの自然の性質を体系的・合理的・実証的に理解することが大切と述べられたが、私としても身につまされる言葉と感じる中で、地域色を鮮明に出すことができるように展開することが必要となって来ると思います。

社会と自然が調和した地域開発、地域の特性を生かした環境の創造を、当社としては独自の「ビオトープ」活動が自然と調和した社会環境や多くの動植物の住める水辺環境の創造に幅広く取り組む橋頭堡と考えて取り組んでいるところです。将来へ向けての東北地方は、首都圏機能

移転構想をはじめとして数々の社会資本整備の計画が進められようとしており、多様化する環境問題を含めての地質調査業の重要性が高まりつつあると感じます。この中で『集める』『歩く』『探る』『掘る』『測る』『整える』『解く』『報らせる』の8つの基本を業務として、ジオドクターあるいはジオコンサルタントをめざす私共の活動は重要になってきており、今回のようなイベントを契機としてますます質的な充実を図って行かねばならないと思います。

最後に、次回の名古屋での「技術フォーラム'97」の大盛会を祈願いたします。

